



ようこうだより 2月

令和3年2月1日
 社会福祉法人みどり会
 みどりの森
 ようこう保育園
 園長 山崎 恵美

先月は寒波の影響でようこう保育園にも雪が降り積もりました。まぶしい白銀の世界に「ゆきだ!」と大喜びの子どもたちは園庭へ飛び出し頬を赤らめ雪遊びを満喫しました。室内では、友だちや保育者といっしょに、心も身体も弾ませてリズム遊びを楽しみ、その姿に冬の間の成長をひしひしと感じています。

春一番が吹きはじめる2月。コロナ禍で、子どもたちにできることは何かを考える日々ですが、少しずつ暖かい陽光がさしてくるこの季節に後押ししてもらいながら元気に過ごしていきたいと思います。



～ 春の訪れ ～



2月2日は『節分』。この日を境にいよいよ『春』になります。日本の旧暦では、春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分は大晦日に当たり大事な日とされてきました。節分には豆をまいて、悪いものや災いに例えた鬼を追い払い、福を呼び込んで1年の無病息災を願います。

節分といえば“鬼”…子どもたちは「おにさん、くるかなあ?」とドキドキしていますが、毎年ようこう保育園にやって来るのは怖い鬼ではありません。怖い鬼だけでなく、いろいろな鬼がいてもいいよね…と、ユニークな鬼が登場します。中には“鬼なんていないよ”と思っている子もいますが、実際は、現実と空想の間を行ったり来たりしているようです。今年も、年長児が鬼のパンツ柄のマスク(鬼の世界もコロナ禍?)を散歩先の山で拾ってきたことから節分のストーリーが始まりました。ここから、子どもたちの自由な発想次第でストーリーが展開していきます。散歩から帰るやいなや、マスクを手に「おにのマスクがあった!」と興奮した表情で小さいクラスや事務所に押し寄せ、報告してまわっていました。その数日後、なんと鬼から「マスクしらないか?」と手紙が届いて…見たこともない“鬼”のイメージを膨らませ、子どもらしいつぶやきや面白い発想を生み出していきます。鬼に「マスクをひろったよ」「ほいくえんにとりにきてね」と手紙の返事を書いたり、やいかがし(とげのあるヒラギに、焼いて身を取り除き、頭・尻尾・骨だけになったイワシを付けたもの)を作り、鬼が保育園に入ってくるやいなや玄関などに飾りました。クラスでは鬼のお面や豆箱、豆を作り、着々と豆まきの準備も進めてきました。落とし物をした鬼とのやり取りに、楽しさと緊張を繰り返し味わい空想の世界を広げていく子どもたちを微笑みながら見守ってくださっている保護者の方々に有難く思っています。さてさて、明日はどんな鬼がやってくるのでしょうか?そして、子どもたちはどんな姿を見せてくれるのでしょうか?



♪めだか♪ ホールでリズム0歳児

2月～3月 行事予定

- 2月2日(火) 節分
- 2月27日(土) かがやき会(リズム会)
- ※園児や保護者の健康第一を考慮し、新型コロナウイルスの状況次第で、直前に中止・無観客での開催など変更することもあります。何卒ご了承ください。
- 3月3日(水) ひなまつり
- 3月25日(木) お別れ会
- 3月27日(土) 卒園式
- ※3月13日の5歳児卒園前懇談会は
コロナ禍のため個人面談に変更させていただきます。



→裏面につづく

下へ下へと根を伸ばせ！



「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」これは、元三洋電機副社長・故後藤清一氏の広く知られている言葉です。今は花が咲いていなくても、日々、陽の光を浴び、水を吸収し、見えな
い土の中で根がしっかりと伸びていけば、必ず大きな花が咲くということでしょう。

人生の中にはいろいろなことがあります。今、まさに世の中はコロナ禍で混乱状態です。“今は困難なことがあ
っても、コツコツと努力をすれば未来にはきっと実を結ぶ”…私自身、壁にぶち当たった時に励みにしてきた言葉
でもあります。そして、この言葉は乳幼児期の子どもたちの学びや成長にも共通しているようにも感じています。

～ 子どもの学び・成長は奥深い ～

大人は子どもに、“早く〇〇ができるようになってほしい”“頭がよい子になってほしい”と、上へ上へと伸び
ることを願いがちかもしれません。しかし、上へ上へと伸びることが子どもの育ち・学び・力なのでしょうか？
生活や遊びを通して人と出会い、関わり、心身でたくさんの経験を重ねた結果、子どもの学びや成長は深く広く
下へと伸びていきます。

<例> ✨興味や発見…様々な環境(人・自然・もの・文化など)に興味津々。発見もいっぱい。

✨試行錯誤……自分自身や仲間と工夫し努力することで、解決する力も身に付きます。

✨失敗や葛藤…乗り越えた時の達成感、喜びは心に大きく刻み込まれます。

大人が先回りして、すぐに手や口を出さず、子ども自身が時間をかけて
経験するのを見守りましょう。

- 子どもたちは遊びや生活の中で、自然なかたちで文字や数に触れていきます。大人の思いで、文字や数、知的
なものを教え込むことは、『遊び』とは言えないかもしれません。子どもにとって『遊び』とは楽しいもので
す。何らかの結果・成果を出すために早期に教えなくても、日頃、文字や数に触れていくことで、年齢ととも
に次第に興味関心を持ち始めます。就学前ごろになると結果的にそれらを学び覚えていることも多いのです。
- 数字で表せる学力や育ちは、子どもの発達の中のほんの一部です。まずは、五感を使って、子どもが楽しいこ
と、悔しいこと、悲しいこと、嬉しいことなどを経験し、表情や言葉で表現しながら学ぶ姿を保護者の方とと
もに受け止め見守っていきたいと思います。

※広島県では「遊び 学び 育つひろしまっ子！」として、

『感じる・気付く力』『うごく力』『考える力』『やりぬく力』『人とかかわる力』の
5つの力を乳幼児期に育みたいと考え取り組んでいます。

○遊びの中で子どもの力が育ちます。

「遊び」は「学び」そのもの、そして「学び」は「遊び」そのもの。

○乳幼児期に育った5つ力が、小学校以降の教育の基礎となり
学力にも大きな影響を与えられています。

また、生涯にわたる人格形成に重要な力でもあります。

○保育園では、家庭、地域、小学校、行政などと繋がり、

「5つの力」を育てていくことができるように過ごしていきます。

